HOSEI
よき師　よき友
つどい結べり

法政大学 校友連合会報

http://www.hoseinet.com

発行・法政大学校友連合会
発行人　佐伯弘治
編集人　丸岡　孝
〒102－0073
東京都千代田区九段北３－２－３
法政大学九段校舎内４階
電話　(03) 3264－1831（代表）
ＦＡＸ　(03) 3264－4770
振替口座　00100－8－89141

健全な校友組織の土台づくり

校友連合会会長　佐伯　弘治

私が法政大学校友連合会の会長に就任したのは2002年10月1日であり、この日が連合会の正規のスタートになっている。

百十数年もつづいた校友会が、なぜ組織を組み直し、名称変更に踏み切らなければならなかったのか。このことの意味を、会員の誰もがよく承知しているかのように見えるが、実際には、正確な理解はそれほど浸透していない。いうならばそれだけ問題がややこしいということであろう。ただし、校友団体の運営の難しいのは法政だけではないようだ。

本来、親睦を旨とする集まりであるから、そう難しい問題はない筈であるが、歴史の古い大規模大学ともなると簡単にはいかないらしい。会員間の人生観や価値観の相違、はては思想や感情の対立が事を複雑にしているようだ。

もっとも、だからといって校友団体の混乱をいつまでも放置しておけるものではない。卒業生のもつ下支え的なエネルギーをぬきにして私立大学の充実発展はあり得ないからである。

ところで、私の会長としての任務は、健全な校友組織の土台づくりにつきる。作業は漸く緒についたばかりであるが、与えられた時間は残り少ない。それでも来年の3月末までには、つぎに掲げる諸問題の前途への道筋だけは明確にしておかなければならない。

①校友会館跡地処理の支援（3月26日、法政大学に土地寄贈）と旧校友会の清算促進。

②校友連合会の機能を高めるために、現行会則の改正を視野に入れた会則検討委員会の設置（5月17日から審議開始）。

③法政大学が総務部に校友団体を管掌するセクション「渉外・庶務課」を設置することに連動して校友連合会も事務局を拡充し（明年4月1日を目途とする）、大学との連携を強化する。

④会員の増大と会費納入方法の合理化推進（法政大学及び法政大学後援会の支援と協力のもと、会費納入の効率化を図る。実施時期や方法については大学と協議）。

（さえき・こうじ）

未来をみすえて
大学改革をリードする
東の法政　西の立命館

世の中の仕組みや制度はいつの間にか陳腐化する。大学も例外ではない。歴史や伝統はそれなりに尊いが、過去にしがみついていると時代の流れに取り残される。法政大学も生まれて120年、30数万人に及ぶ卒業生が巣立っていったが、その母校も今、変革の嵐の中で新しい姿に衣替えしつつある。アタマの中が「古い法政」のままだったら、この際、認識を改めねばなるまい。とは言っても、すでに大学院があるのに「法科大学院」とか「専門職大学院」とか言われるとどうも分かりにくい。そこで、今回は最近の制度改革のあらましをおさらいしながら、進化する母校の実態を、そして同じように積極的に改革をすすめる立命館大学の現状、更に海外の大学の状況についてリポートしてみた。（丸岡　孝）

経営の自立・国立大学

大学制度を巡る変革の柱は、大まかに言って二つある。

少し堅苦しくなって申し訳ないが、一つは国立大学の独立法人化であり、二つ目は私立大学の専門職大学院の設置である。

今年の4月から全国の国立大学89校が法人化された。これは、一言で言えば「大学経営の自立」を促すもので、それぞれの大学が独自の経営手腕を問われることになる。国立大学は今までは安定した予算の中でいわば「経営上のリスク」はなかった。しかし、今問われているのは、時代の変化・社会の進化に即応した、経営の効率化である。横並びではなしに、競争原理の導入、民間的発想による経営体質の強化を目指すことになる。

法人化された国立大学は学長に強い権限が与えられる。従来指摘されてきた評議会（教授会や学部長の集合体）などによる非効率な運営は排除されることになる。

組織や人事もトップダウン方式になるが、反面結果については、第三者の厳しい評価を受けることになろう。この点は私立大学にも問われるテーマでもあるが研究や教育の成果を社会に説明しなければならない。

世の中が求めているニーズを把握し、情報を積極的に発信してゆくことが大きな課題になろう。

職業人養成・専門職大学院

「高度な専門知識と技術を持つ職業人の養成に特化した大学院」というのが、専門職大学院のうたい文句である。制度としては、昨年春に発足したが、4月から83校が新しく開校した。

「プロフェッショナルの養成」と言うだけあって、百花繚乱、アッと驚くようなコースもある。曰くI・Tプロ、助産師養成、株式会社の参入などなど。

特殊な分野は別として、「法科大学院」がそのシンボル的存在だ。4月から68校が名乗りを上げた。法科大学院は司法制度改革の要で、法曹界の人材拡充を目指す。人口10万人あたりの法曹人口は、ドイツ・イギリスの10分の1、アメリカの25分の1とのこと（雑誌法政1月号）、「社会人や法学部以外の卒業生を3割以上入れること」が目標とされたが、入学者も社会人が48%に達した。

着々と進む教学改革
――大学理事・和田實一氏に聞く

法政大学

このような背景の中で、法政大学の取り組み姿勢や制度はどのように変わったか？　4月以降の動きを法政大学の和田實一理事に伺ってみた。

ロースクールとビジネススクール

Q　法政では二つの専門職大学院がスタートしたそうですが、まず話題の法科大学院、いわゆる「ロースクール」について。

和田　定員100人に対して、2、394人の志願者でした。全国68校中第4位の応募状況です。現在96人の第1期生が入学し、新しくなった法科大学院棟で学んでいます。また、法科大学院議長には野中俊彦教授が就任しました。

本学の法科大学院は、市民に密着した法律相談実務を担う市民法曹の養成を大きな柱としています。同時に、複雑化する企業法務、国際法務に対応できる法律家の育成を目指しています。

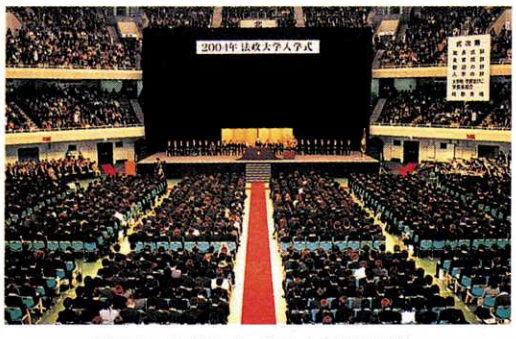
このため、カリキュラム面ではクリニック関連科目を重視し、他に先駆けてリーガルクリニック準備室「法律事務所」を法科大学院棟4階に開設しました。

いわゆるビジネススクール（イノベーション・マネジメント研究科）ですが、社会人を対象とした1年制・入学定員60人の専門職大学院（昼間）です。同研究科には、経営管理（MBA）と情報技術（MBIT）のコースがあり、経営学、社会学、情報科学、工学の分野で構成された「ビジネスとITのコラボレーション」が基本コンセプトになっています。

工学部の学部改革

Q　法政の新しい学科の開設はいつも話題になっていますが。

和田　2004年新設のシステムデザイン学科は、製造者本位から利用者本位に置いた「ものづくり」に立ち戻り、美しく、使いやすい機能的デザインを基本に「アートとテクノロジーの融合」を目指して、コンセプト開発からプロダクトマネジメントまで、人と環境に優しい「ものづくり」を総合的に研究します。入学定員は60人。授業の一部が市ケ谷キャンパスで行われています。



2004年入学式（日本武道館）

華々しくスタートしたものの、問題は中身である。質、レベル！　これからは卒業後の司法試験の合格率が乱立気味の「大学院」を冷酷に淘汰していくことになる。

05年度開設新学科

（1）国際政治学科

2005年度4月には、法学部に国際政治学科が誕生します。入学定員は135人を予定しています。新学科には、アジアの現実から世界の課題をとらえる「アジア国際政治コース」と、地球大の問題に理論と政策でチャレンジする「グローバル・ガバナンスコース」が設けられます。

（2）現代ビジネス学科

2005年4月、経済学部は現代ビジネス学科を加えて3学科体制となります。新学科の入学定員は150人を予定しています。新学科では、企業経営に携わるビジネスマンや企業経営を支援する人材の育成を目指していきます。

Q　大学院の改革についても触れてください。

国際日本学インスティテュート博士課程を設置

和田　昨年4月に修士課程を発足させた国際日本学インスティテュートは、今年4月に博士課程を開設しました。国際日本学インスティテュートは、大学院の日本文学専攻、日本史学専攻、地理学専攻、政治学専攻、社会学専攻の5専攻で構成しています。このことによって留学生を受け入れる体制ができ、この4月には中国、韓国、タイ、カンボジアなどから8人の留学生を受け入れています。

人文科学研究科に国際文化専攻開設

和田　国際文化専攻の特色として、2つの領域を上げることができます。その1つは異文化相関関係研究。多様な地域文化間の相関関係を構造的、歴史的、動態的に研究します。

他の1つは多文化共生研究です。異文化理解の欠如と不寛容に起因する紛争の解決、多文化・多民族間の共生を探究します。

これによって、大学院の組織は11研究科・23専攻・1インスティテュート・2専門職大学院の構成になります。

西でがんばる立命館
新たな学園創造へ

法政大学と同時に私学界で注目されているのは、京都の立命館大学である。周知の通り同大学は135年の歴史を誇る名門大学であるが、立命館が改革に着手したのは1979年。2000年には別府市に立命館アジア太平洋大学を開校。全学あげて改革を積極的にすすめている。そこで、紙面が足りないが立命館大学広報課にひとこと現状をお伺いしてみた。

21世紀初頭において、立命館学園をめぐる競争的環境は、多面的で構造的変革を伴う激烈なものとなっています。立命館学園は、これまでの到達点を踏まえつつ、厳しい状況をチャンスとして「世界の立命館へ」というビジョンのもとに、新しい「立命館文化」の形成・学園創造を進めていきます。具体的には、2001年度から「新世紀学園構想・

（2面へつづく）

開設20周年を迎える 多摩キャンパス

多摩キャンパスが開設されてから20年になる。大学ではこれを記念して、多摩地域の住民も参加できる多彩な記念事業を計画中とのことである。多摩キャンパスから巣立った学生は2万人を超える。メインイベントは在校生、卒業生との交流の場ともなる。学園祭も開かれる。広大で緑あふれる多摩キャンパス。一度、訪ねてはいかが。これを機会に、法政大学多摩開設20周年記念・ホームカミングデー実行委員会座長の経済学部教授村串仁三郎さんに、記念事業の計画をお寄せいただいた。（竹内實昭）

村串仁三郎
法政大学
経済学部教授

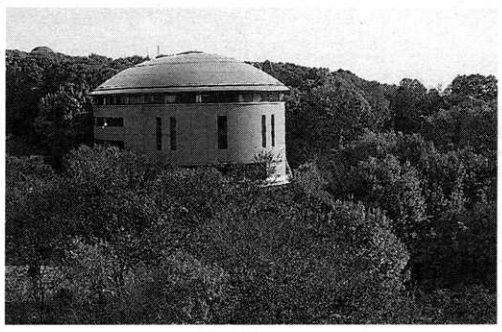
10月31日(日)にホームカミングデー

母校を訪ねる日

大学改革への弾みをつけた学部移転

経済学部と社会学部が多摩に移転して、今年でもう20年もたった。

20年前、過密な市ケ谷校地にあって、何らの教学改革もできずにいた2学部は、移転後の困難をものともせず、教学改革を実現し、ひいては市ケ谷校地の過密を解消し、法政大学の発展を願って移転したのであった。事実、移転後に市ケ谷校地の過密は徐々に解消し、教学改革のスペースが生まれ、ボアソナード・タワーの建設、3新学部の立ち上げを実現しえた。今日の法政大学の大改革・発展はこの多摩移転から始まり、苦労の多かった多摩2学部の20年の営みによって可能となったのである。



エッグドーム【多摩キャンパス】

記念事業盛大に

式典 10月9日(土)・大ホールで

そこで、法政大学は、多摩キャンパス開設20周年を盛大に祝う記念事業を、全学体制で記念事業実行委員会を組織し、多摩校地で計画している。いまだ未定部分も多いが、基本計画は次の通りである。

メインイベントの1つは16年間に送り出した多摩卒業生約2万300人に呼びかけて、多摩キャンパスでホームカミングデーを開催することである。日程は10月31日（日）12時から18時を予定している。

1部は式典で、経済、社会、現代福祉各学部卒業生合同の記念集会を開催し、大学理事からの大学近況報告、各学部長の挨拶、記念講演「日本経済の行く方」（仮題）講師は現在未定だが、若い卒業生に関心のある講師とテーマを検討中である。また、若い卒業生に喜んでもらえるアトラクションも計画している。

2部のパーティは、学部棟に分かれての学部別卒業生の祝賀パーティとなる。学部長、同窓会代表の挨拶に加えて、各界で活躍している卒業生からの元気な挨拶も予定している。パーティは立食とし、ささやかながら軽食と酒、全員に当たる福引や記念品を用意する。

3部はゼミなどのOB／OG会を企画。学部別祝賀パーティの後、各学部のゼミOB／OG会、多摩に拠点を置いた体育会OB／OG会、多摩サークル連その他サークルのOB／OG会などの同窓会を教室で開催するよう呼びかけていく。

ホームカミングデー当日は、ほぼ1000人程度の参加を予想している。

なおホームカミングデーは、丁度、多摩学園祭の日に当たっており、在校生による模擬店や音楽公演にも卒業生が参加できるよう学生と調整する予定である。

多彩な記念事業・催物企画

20周年の記念式典は10月9日の午後から、多摩キャンパスの大ホールで行う。当日は総長をはじめ大学関係者、周辺自治体首長を招待して、記念講演と郷土芸能の公演も予定している。

また、この日は午前中にエッグドーム5階で20周年記念シンポジウムを開催する。

テーマは「21世紀のウェル・ビーング」（講師は検討中）である。

キャンパスコンサート スポーツ教室、ダンス集会、臨時放送局開設

その他、記念キャンパスコンサートを12月4日の土曜日午後に実施する。また地元住民を対象にしたスポーツ教室、ダンス集会なども企画中。何れも参加費は無料。これら事業は、毎年、周辺住民を招待して行われており、地域住民との交流に一役買っている。

新しい企画では、多摩キャンパス放送局を臨時に開設する。これは学生の協力によって、FM放送、地元ケーブルTV局と提携してのビデオ放送を計画中である。加えて、20周年記念誌の発行を計画している。

詳しい情報は、8月末に卒業生に事業のプログラム・招待状を発送してお伝えする。また、内容がきまりしだい大学のホームページでもお知らせする。お問い合わせは、各学部事務課へ。また大学公聴広報課、経済学部同窓会ホームページを。参照されたい。

多摩キャンパスへのアクセス

東京都町田市相原4342
☎042(783)2091
京王線めじろ台からバスで法政大学行き
JR相原駅からバスで法政大学行き
JR西八王子駅からバスで法政大学行き

法政の「フランス年」

今年来年

ボアソナード生誕一八〇年

フランス大使（入学式で）

法政大学の前身は1880年創立の東京法学社。その後1889年（明治22）に設立された「和仏法律学校」ではギュスターヴ・エミール・ボアソナード博士（1825―1910）を中心として、フランス語による先進的な民法や行政法の教育が施され、多くの門下生がフランスで勉学を修め、帰国後多大な社会的貢献をしている。

このような法政大学創設以来のボアソナード博士の貢献に対して、法政大学は博士の名を冠した「ボアソナード・タワー」によって博士の栄誉を讃えると共に、博士の名を永く記憶に留めようとしている。

また2005年（平成17）は、ボアソナード博士生誕180年でもある。法政大学はこの意義ある節目を迎えるにあたり、今般在日フランス大使館のご協力を得て「法政におけるフランス年2004―5」を企画することとなった。法政大学とフランスとのこれまでの関わりを振り返ると共に、様々な領域において日本とフランスとの接点を取り上げていく予定である。

主な企画

▼フランス大使入学式祝辞
▼フランス大使講演会
▼雑誌『法政』座談会
▼国際シンポジウム＝「21世紀型COEとは何か」
▼リヨン第三大学30周年記念行事
▼ボアソナード博士墓前祭（南フランスのアンチーブ）
▼路地裏シンポジウム＝「フランスの坂と神楽坂」
▼多摩キャンパスコンサート＝「フランスの音楽家たち」
▼このほか連続講演会＝「フランス印象派・私のこの一枚」、在日フランス商工会議所寄付講座、展覧会など多彩な催物が企画されている。

（一面からつづく）

推進会議」を組織し、概ね10年間の見通しを持ちつつ、「第一次プラン」として4カ年の学園政策を策定しました。立命館アジア太平洋大学大学院の設置、世界で活躍する学生の育成、中高大院一貫システムの拡充など8つの目標を設定し、着実に改革を推進しています（立命館大学広報課）。

欧米の大学では…

海外の最近の大学事情を和田理事に伺ってみた。

多くの国々は公費（国公立及び政府による機関補助のある私学）で教育を受けているのに対して、日本、韓国などは70％以上が私費である。しかし、最近は多くの国々が財政難にあり、その皺寄せが高等教育にきている。アメリカにおいては、80％の学生が公立大学で学んでいるが、授業料改定などで、学生の授業料負担は増加している。

ドイツは、2001年までは、国立機関の大学のみであったが、最近では多くの私立大学が設置されている。このような傾向は、フランス、中国、ロシア、イギリスなどの国々に広がっている。今後、急速に大学政策の変革が行われるのは、EU加盟諸国である。EU諸国は2010年を目標に、『ヨーロッパ大学圏』を発足したいと考えている。

最近の母校の躍進ぶりについて卒業生理事のお二人からひと言コメントをいただいた。

「変化を先取りした法政大学」

法政大学理事　山崎　光雄

私は監事一年、理事三期九年目で任期の最終ラウンドを走っているところである。この十年間は激しく変化する時代の要請を先取りしリスクを乗り超えて短期間に五つの学部と多数の学科の新設した上にロースクール、専門職大学院、研究所の設置、三つのキャンパスに新しい校舎の建設をする等、文字通りの改革を目のあたりにした当事者の一人として言葉に尽せない感慨深さがある。

とりわけ私の理事就任と時を同じくしてリーダーとして優れた先見力とガバナビリティを発揮してこられた清成総長の力量と努力に深甚なる感謝と敬意の念を新たにしている。

今後はこの十年で築き上げた基盤をベースに不断の努力を重ねることによって法政は私学の雄としての地位を獲得し発展を続けて卒業生の誇れる母校として輝き続けると信じて止まない。

「母校の更なる発展を」

法政大学理事　加藤　正男

1958年3月卒業以来、母校の発展を願いつつ微力を傾けさせていただいてきた。ここ数年来の新鮮かつ活力ある進展は、時代の先端を邁進する改革者の雄姿を彷彿させる。

特に、2003年度の受験応募率が全国で最高位を占めたことは、ボアソナードタワーとともに、各種改革により芽生えた学園の魅力とステータスの高さを広く社会に知らしめた。

かかる快挙は、総長清成忠男氏の卓越した先見力と指導力そして正鵠を射た改革施策の賜であり、関係者皆様の真摯な努力の積み重ねに敬服するのみである。

大学当局と校友諸氏が互いに協力し合い、母校が目指す「開かれた法政21」の一層の進展と「世界に誇れる法政大学」の実現を、心から願ってやまない。

法政大学校友連合会

会長
佐伯弘治
旧私法学専攻1953年修

法政大学校友連合会副会長（会長代行）
経済学部同窓会会長
法政大学監事
岩部金吾
経済学部1956年卒

法政大学校友連合会副会長（広報担当）
経営学部同窓会会長
法政大学理事
河端照孝
経営学部1963年卒

法政大学校友連合会副会長（組織担当）
法政大学理事
木山俊平
法学部1959年卒

法政大学校友連合会副会長（総務担当）
応援団OB会相談役
安藤文雄
経済学部1962年卒

法政大学校友連合会副会長（財務担当）
工学部同窓会会長
工学部体育連合会OB会会長
阿部聖
工学部1966年卒

法政大学校友連合会副会長
法学部同窓会会長
原島榮一
法学部1958年卒

法政大学校友連合会
副会長
小林一久
工学部1964年卒

法政大学校友連合会副会長
社会学部同窓会会長
森田忠男
社会学部1956年卒

法政大学監事
アメリカンフットボール部OB会会長
大石勝康
経済学部1953年卒

「旧校友会館跡地」を大学に寄贈

3月26日、贈呈手続き完了

旧校友会が管理運営していた「校友会館跡地」（法律上の名義人は㈱富士見会）が関係者の合意により法政大学に寄贈されることになり、このほどその手続きを完了した。当該物件は東京都千代田区六番町にあり、かつては文豪・泉鏡花の住居だった由緒あるところ。面積400㎡弱、昭和35年以来卒業生の会合などに利用されてきた。

その旧校友会館も老朽化が激しく、平成14年7月には解体、以後駐車場として活用されていた。

都心の貴重な土地でもあり、跡地の運営・活用については関係者の間で慎重に検討されてきたが、母校の創立120周年記念募金の一助になればとの結論に達したものである。

手続き的には、2004（平成16）年3月26日名義人である「富士見会」総会において満場一致で承認され、同日、佐伯校友連合会会長立ち会いのもとに、柳澤旧校友会会長から法政大学平林常務理事に「目録一式」が手渡され、贈呈は無事完了した。

なお、当該物件は概算で時価評価5億2千万円とのことであるが、前述のように、記念募金の一環として取り扱われることになった。

今回の寄贈は大学でも大変喜んでおり、今後有効な活用が期待されている。

法政大学平林常務理事に「目録一式」が手渡された。右 柳澤旧校友会長、中央は佐伯校友連合会長。

法政大学校友連合会

平成16年度

代表議員会議開催

校友連合会の最高決議機関である代表議員会議が7月17日、ボアソナードタワー26階で開催される。代表議員は全体で212人、新年度の活動方針を決定する。主な議題は、平成15年度事業報告、財政報告、監査報告、平成16年度事業計画案、予算案、その他。詳細は次号での報告となる。

21世紀COEプログラムのその後

国際日本学研究センター長　白井　五郎

文部科学省の平成14年度21世紀COEプログラムに、本学の「日本発信の国際日本学の構築」が採択されて3年目に入った。一昨年12月の国際シンポジウム「国際日本学の構築」を皮切りに、サテライトシンポジウム（沖縄県那覇市、岩手県陸前高田市）、ワークショップなど数多くの催物を行ってきた。

最も新しいところでは2004年3月に「沖縄のアイデンティティ」に関するシンポジウムを実施した。海外調査にはドイツ、フランス、ロシア、オランダ、中国、韓国等が含まれている。研究成果の一部は既に、法政大学国際日本学研究所研究報告第一集（2003年3月）、第二集（2003年9月）、第三集（2003年11月）等に掲載されている。基本的に英語圏以外の国を対象に、各々の国の研究者が日本をどう見ているかの違い自身を研究対象としている。いわゆる、メタサイエンス（学問の学問）という手法を用いている。併せて、外国人研究者と共同で外国における日本研究の発掘と紹介、並びに分析作業等も行っている。今後、これらの課題をさらに深く掘り下げてゆく予定である。

120周年記念募金 7月まで寄付受入れ継続

1998年12月からスタートした法政大学創立120周年記念募金は、募金目標額50億円に対して募金申込金額が終了予定の3月末日現在約38億8500万円を超えた。募金委員会では、目標額達成をめざして、第Ⅱ期の寄付者銘板作成に間に合う7月末日まで寄付の受入れを継続することを決めた。なお、この募金申込金額の中には、3月26日、㈱富士見会から大学に寄贈された旧校友会館跡地（東京都千代田区六番町5番16／宅地／396.69㎡）の取得価額5億2000万円が含まれている。

7月までに記念募金1口2万円で累計3口（6万円）以上の寄付をいただいた方は、ボアソナード・タワー1階に設置される第Ⅱ期の銘板に芳名が刻銘される。

申込み先
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3　法政大学九段校舎4F
総務部渉外・庶務課 渉外・募金担当
電話　03―3264―9807

法政大学 2004年度 入試状況

過去最高の志願者数93,502人を記録した2003年度入試と比較して、全体で、7,304人の減となり、最終志願者数は86,198人（前年度比マイナス7・8%）という結果となった。

志願者数減少の大きな要因として、私立大学全体として、昨年の志願者数増加から一転して減少になったこと、さらにその増減率が2003年度の対前年比3・3%増加から4・7%減少へと変動したことが挙げられる。

法政大学における志願者数内訳をみると、大学入試センター試験利用入試（以下センター利用入試）で746人の増。第一部では5,794人の減。第二部では経済学部・社会学部・法学部法律学科で募集停止の影響もあり2,256人の減となった。

学部別では、人間環境学部およびキャリアデザイン学部で、センター利用入試の新規導入や募集時の昼夜区分が廃止となった影響などもあり、大幅に志願者数を増やした。その他の学部については、概ね「隔年減少」による志願者数の増減が顕著に見られ、一昨年大幅に志願者を増やした学部は減少、反対に志願者を減らした学部は増加、という結果となった。

今後は、受験生人口が増加する時代は既に過去のものとなっていることを踏まえて、大学全体や既存学部の魅力なども丁寧に掘り起こし、法政大学の魅力を受験生に発信していく必要があると考えている。

2003年度 就職状況

2003年度の就職状況は、2月1日付で4年生を対象とした、無作為抽出500人の電話による内々定保有率を調査した。

その結果、この時点での就職状況の特徴は、3月中旬発表された文部科学省と厚生労働省との共同調査による2月1日付の内定状況（文系）は、全国平均は82・1%で法政大学は91・6%で、9・5ポイント上回った数値が出ている。

前年7月の前述の電話での聞き取り調査では、男女とも大幅ダウンであったが、2月の調査の結果、昨年とほぼ同率の内定となっている。

いずれにしろ、企業の採用活動と内々定の時期が早回っており、学生の就職活動準備がついていけない状態である。

就職部は、昨年1月より、69年館から第一校舎（旧図書館）へ移転した。学生の利用が大幅に増加している。学生の相談件数は1・2倍、パソコン利用は約2倍となっている。また、来訪企業も増えている。最近よく言われている、ネットによる就職活動や採用活動に変化が見え始めている。学生は不安を持ち就職部に相談を、企業は学生が見えなくなり、ともかく大学へ、といった変化である。

シリーズ 法政大学の歴史（3）

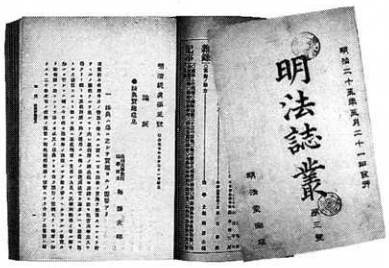
ボアソナードと民法典論争

ボアソナードが明治12（1879）年以来、起草作業を続けてきた民法典は21年2月までにほぼ完成し、法律取調委員会での修正、枢密院の諮詢などを経たのち、23年4月に公布された。

ところが、大隈重信外相の条約改正案に対する反対運動において昂揚したナショナリズムを背景に、英法派の法学士会が「法典編纂ニ関スル法学士会ノ意見」を公表した（22年4月）のを皮切りに、「外国人起草」による「旧慣無視」の法典編纂への反対運動が激化した。穂積八束の「民法出デテ忠孝亡ブ」（『法学新報』24年8月）が出る頃には論争はイデオロギー対立の様相を深め、教育勅語発布（同年10月）後の、「家族国家」的な「国体」観念を中軸にした天皇制イデオロギーの確立に伴い、「個人主義」と「契約自由の原則」に則ると見なされたボアソナード法典排撃の風潮は煽られた。25年5月から6月にかけて、貴衆両院は法律施行延期を可決した。延期派の「泰西主義に反発する昂揚したナショナリズムに訴え、少しも論理的ではないが心理的・感情的にはきわめて巧妙な議論によって、ボアソナード法典を闇から闇に葬り去」る作戦（大久保泰甫氏）が功を奏した結果であった。ボアソナードは「日本人民ハ余ヲ見棄テタルモノナリ、余亦日本ニ用ナシ」と嘆いたという。

26年4月、民法の「根本的改修」を行うべく、法典調査会が発足し、穂積陳重・梅謙次郎・富井政章が起草委員に任ぜられた。しかし、梅を中心としての「改修」作業は、実質的にはボアソナード法典の、したがってフランス民法の影響を強く残したものになったと言われる（星野英一氏）。三博士による草案の脱稿は28年末であった。新法典の性格が右のようなものであったとしても、仏法系の法律学校にとって、法典論争における「仏法派」の「敗北」の打撃は大きかった。そのことは、論争後の入学者が卒業期を迎えた28・29年の卒業者数が、和仏、明治両法律学校では減少したのに対し、東京法学院と日本法律学校では急増したことに顕著であった。しかし、「英法派の勝利」がもたらしたものは、実は「独法派」の、帝国大学系の官僚法学派の制覇に他ならなかったのである。

法政大学史編纂室
飯田泰三・明田川融



梅謙次郎の「法典実施意見」（「明法誌叢」第3号）

校友連合会役員・委員会人事

《役員》
▼04年3月9日付
退任　内田　吉久（副会長・オレンジ同窓会会長）

《委員》
▼04年4月1日付
新任　総務委員会　副委員長　潮崎　敏彦（経済学部同窓会）

第13回法政大学全国卒業生の集い
法政大学神奈川大会実行委員長
法政大学第二高等学校同窓会会長
法政大学評議員
岡田安弘　経済学部1960年卒

株式会社 RKB毎日ミュージック・システム
代表取締役　生川之雄　経済学部1959年卒

法政大学関西校友会
会長　古市実
事務局　〒556-0011　大阪市浪速区難波中一丁目六番八号　ホテル「一栄」内
電話（〇六）六六四一―三一三五(代)
FAX（〇六）六六三三―五九四九

特殊機化工業株式会社
代表取締役会長兼社長　古市実
本社　〒553-0001　大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三
電話（〇六）六四五八―七五三〇
FAX（〇六）六四五八―七八五〇

法政大学校友連合会
山口県宇部支部
支部長　國吉正和　経済学部1959年卒

学校法人西岡学園・札幌山の手高等学校
理事長　校長　西岡憲廣
卒業生評議員・1963年法学部卒
校友連合会北海道支部長・札幌支部長
札幌市西区山の手二条八丁目三番十二号
電話（〇一一）六一一―七三〇一
FAX（〇一一）六四一―三七九五

法政大学校友連合会
函館支部
最高顧問　若山徳次郎　経済学部1943年卒

法政大学校友連合会
函館支部
支部長　倉崎六利　専商1950年卒

法政大学校友連合会
鎌倉法友会会長
法政大学評議員
中島和晃　法学部1950年卒

法政大学校友連合会
湘南支部
支部長　中山重臣　社会学部1961年卒

東西南北

地域支部・卒業生団体から

卒業生の皆さんからお寄せいただいた短信を掲載しました。個人から、連合支部、同窓会からの近況報告などです。(竹内)

山形県支部

骨ある武士・感謝の人
前結城支部長を偲ぶ

年の瀬の昨年12月20日、前山形支部長・結城吉之介氏の葬儀が大荒れの天候の中、執り行われた。94歳の大往生でした。明治生まれの政治家らしく、信念をもった「骨」のある武士であった。

その生き様は、戦後の吉田総理大臣の秘書を始めとして県議、市長、政府の諮問機関の委員など、常に「感謝」という二文字を体中からあらわし、誰にでも目配り、こころ配りを惜しまない低姿勢のそのお姿には、私も心酔した一人であった。

思い起こせば、内に籠もりがちであった山形支部を、全国に目を向かせ、地方都市でも田舎の山形での全国大会の開催は、先生の人柄によるものであったといっても過言ではありません。母校法政の総長閣下を現役三代、山形に来県いただいたのも、先生の力でした。

奢り高ぶりもしないその凛

新潟県支部

家族合同新年会で
西川勉氏の県会議長就任を祝う

1月17日、万代シルバーホテルで、西川勉県議の平成15年度県会議長就任のお祝いと家族合同新年会を開き、49人が参集した〔上段写真〕。

最初に西川氏の挨拶があり「新潟県議会の第81代議長に就任し親子二代の議長就任を果たした。現在77歳であるが、大学時代は下駄を履いて学んだことや雨の日には木月校舎へ通うのに傘もない時代であった」ことなど苦労話を披露。

そして現在の日本の社会情勢を分析し「軸無き国家は滅びる」との持論を展開、「我が国が平和を維持するために国家としての確固たる信念と主張が必要」と訴えた。

続いて、風間士郎支部長が家族ぐるみで和気あいあいと行われている登山、ゴルフ、野球などの各種行事にエールを送った。また、毎年、新年会に東京から参加いただいていた故永瀬和夫氏の新潟支部への思い入れを熱く語った。

懇親会は小野塚副支部長の乾杯ではじまり、会では、初参加者の自己紹介や持ち寄り沢山の品物を景品としたダーツゲームをするなど交歓会は和やかに進んだ。

最後に、西川県議に花束を贈呈した後、円陣を組み中村昭夫氏のエールで、校歌を高らかに斉唱、盛会のうちに、伊藤副支部長が締めた。

(68年法学部卒　本橋　繁男)
(㈱新潟ふるさと村・常務)

目黒支部

賀詞交歓会に69人が参加、神和住純氏が講演

2004年1月24日(土)都ホテル東京の「斑鳩の間」で、新年賀詞交歓会を開催した。

今年は講演会と懇親会の2部制とし、講演会の講師に神和住純氏(法大工学部教授・日本テニス協会常務理事)をお招きし、日本人として初めてのテニスワールドツアープロとしての活躍、苦労話など貴重な体験談をお話しいただき、出席者一同感激して聞き入った。

懇親会は69人と過去最多の参加で開始。内山久美子会員の流れるような司会で進行、長谷川支部長の挨拶から和気藹々と始まった。

大学側からゲストとして武田教授(前工学部長・現応援団部部長)夫妻、会員の栗山工学部教授、校友連合会から木山副会長と事務局の坂本、桜井両氏、法二高の岡田同窓会長(大学評議員)をはじめ、各支部からも多数の幹部の方々の参列をいただいた。支部一同感謝申し上げる。

恒例の写真撮影を終え歓談会食も進み、当日のメインイベント「応援団ショー」のパフォーマンスが始まり、懐かしい応援歌などに同窓会員は久しぶりに青春の血の騒ぐひとときを堪能した。

懇親会の最後には、辻田応援団長のリードで一同肩を組み大きな声で校歌を歌い、充実した新年会となった。

会員の皆さんに喜んでいただけたことが何よりで、役員一同今後とも講演会・各行事など、ますます「校友の輪」を広げていくことに力を注ぐ努力を続けたい。今後ともご支援よろしくお願い申し上げる。(副会長・堀場　功)

七機会支部

45周年記念の「七機会」

去る2月24日にお台場のホテル・グランパシフィックメリディアンで、第5回「七機会」が10年ぶりに開催された。

当日は同期生35人、奥様同伴5組の計40人が参集した。名古屋、富山、山形などの遠方からの参加者の近況報告もあり、会は3時間に及んでも話は尽きなく、次回は2年後の2006年4月頃の再会を約して盛会裏に終了した。

尚、今回連絡をとれなかった方はご一報いただければ幸いである。

連絡先／神奈川県横浜市磯子区森が丘2の27の1七機会会長・加勢盛夫あて。

関西支部

新年懇親会塩爺を招く

校友連合会関西支部の平成16年度新年懇親会が1月27日午後6時から、大阪ナンバの一栄ホテル(一枝良男氏54法学卒の経営)9階大宴会場で、80余人の校友参加のもと盛大に開催された。

司会、荒井義信(74年社会卒)氏の発声で開会。まず、古市実(44年経済卒)会長の挨拶があり、法政大学の他大学を圧倒する教学改革、日本の大学で初めての格付け取得による財務内容の開示、第三者評価への取り組みなどの話があり、大学の力強い躍進振りを参加一同確認した。

続いて、ゲストの「塩爺」こと塩川前財務大臣の講演に入った。塩川氏と古市会長の親交は昭和20年代からとのことで、慶応大学出身の塩川氏とは東京6大学の仲間として、また青年会議所の同志として、更には関西を代表する政治、経済の重鎮としての関係があり今日の講演に至った。講演時間の40分があっという間に終わってしまうと感じられるほど、大変に興味深い内容であった。

その後、校友の桂喜丸(81年工学卒)師匠の落語で会場が爆笑の渦につつまれた後、氏平競重(44年経済卒)相談役の乾杯の音頭で懇親会に入った。校友が楽しく懇談するなか、初めて参加された10人の方からの自己紹介があった。

最後に大学評議員である河村(67年経済卒)副会長から参加のお礼と校友連合会活動への協力を呼びかけた挨拶があり、山中惠司(90年法学卒)氏のリードで校歌斉唱に移った。

20代から80代までの80余人の校友が、肩を抱き合い校歌を斉唱する様をみると、校友一人一人、青春時代における法政大学の強い影響力を感じ、法政大学の卒業生であることにあらためて感謝した。

(76年法学部卒・依田　平)

京都支部

法友十八会で会報発行

昭和18年卒業の同期生の情報や意見を募っている。生き残った者にとって「祖国、戦争、人生」等課題は多い。

075(491)2360。

(京都支部長　行待明夫)

中華人民共和国支部

通称・法政チャイナ
設立2周年記念総会

校友諸氏のご支援によって2002年6月、北京市に於いて発足した「法政チャイナ」(大学より金子常務理事、校友会より鷲見副会長ほか校友諸氏の出席を得て)2年の歳月が経過した。

中国各地には、留学生として大学を卒業し、現在各界で活躍している諸氏が多数にのぼる。また、日本の駐在員としてビジネスに励んでおられる卒業生も多数おられる。しかし、広大な地域と国情から卒業生の多数が一堂に集まる機会に恵まれず、日本国内の支部活動とは大きなハンディがある。

そこで、設立2周年を迎えるにあたり記念総会を、2004年6月20日北京市で開催することになった。

この総会を機に「法政チャイナ」を名実ともに躍進する校友連合会支部に確立したいと願っている。(明大は団結して活躍している)

なお、設立総会には、台湾支部および韓国支部から代表が参加された。「法政チャイナ」の内部組織としては上海支部、香港支部が開設されている。

「法政チャイナ」事務局は楠本路子さん(法学部卒・北京在住)が活動の中心を担っている。「法政チャイナ」

Eメール＝houseichina@hotmail.com

(中国支部会長　曹　京鉉)

シンガポール支部

4月20日連合会支部に

シンガポール法友会が登録

1988年8月にシンガポールで設立の歴史を持つ当地法友会が校友連合会の支部として登録された。現在の活動会員は企業駐在員20人、現地自営業5人、現地採用者6人他計34人で、毎年本校創立記念日の4月10日に親睦会を開き、年2～3回のゴルフコンペを開催している。他にも、6大学OB会との対抗戦などに参加。今後、近隣諸国の母校OB会との交流も予定している。

連絡先／シンガポール法友会・巽　弘行　1Jalan Pemimpin#04-06 Singapore577185

☎65-64561088。

(組織委員会　佐藤忠篤・60年法学部卒)

鎌倉法友会

史跡めぐり10周年

早くから、今年の桜の開花は3月末頃と予報されたが三寒四温。お蔭で4月11日の史跡めぐりにはかろうじて花がみられた。定刻10時、既に鎌倉駅西口広場には総勢98人が集合。おなじみの井上隆男先生のコースの見所の説明の後、出発。一路段葛へ。

当日は鎌倉まつりの初日とあって大混雑。人の波をかきわけながら三の鳥居に着き、八幡宮に参拝の後、通称の「お谷(ヤツ)」に到着。古都保存法発祥の地、保全にまつわる当時の苦心談に保存法の大切さを痛感、巨福呂坂へ。

道幅が狭いため一列縦隊になる。先頭から最後尾まで約80m。そして、円応寺へ。国重文の閻魔様の前で十王思想の説明に耳を傾け、建長寺着。出迎えの教学部の永井師に案内され、非公開の法堂(ハットウ)に入り、千手観音に詣で、雲龍の図に感激しながら昼食時間まで750年の歴史を境内で実感し妙高院へ。

昼食後、本堂に移動し浅井住職の法話を聴く。亀ケ谷切通しを抜け薬王寺、岩舟地蔵を経て海蔵寺に到着、吉田住職の好意で方丈にあがり禅宗風の庭園を堪能した。

帰路は伏見稲荷、阿寺尼の墓、東慶寺を経て寿福寺着。山崎副会長の挨拶で散会した。

今年の史跡めぐりは10周年にあたり、過去最高の参加人数であった。会長をはじめ本部、友好支部、今年の「卒業生の集い」神奈川大会の実行委員長も参加された。

来年以降も毎年4月の第二日曜日を史跡巡り会として、より多くの方に鎌倉を知っていただきたい。

尚、8月29日には材木座海岸で恒例の地引き網会を開催する。多くの卒業生の参加をお待ち申し上げる。

(山川久美)

法政一高支部

同窓生の皆さん!!校友連合会に参加しよう

法政大学校友連合会の発足とともに付属高校の同窓会組織に対する期待は日増しに大きくなりつつある。一高からは連合会に3委員が参画・運営に携わっている。

2004年度の「卒業生の集い」は神奈川大会として10月30日に開催されることに決まり、二高が付属校代表として関わることになった。一高にも協力要請があり、相川欣運氏が選ばれた。一高同窓の皆さん是非この機会に連合会の門を叩いてみてください。

申し込みは連合会事務局へ電話03(3264)1831

(一高同窓会長・大石勝康)

法政大学外濠会

卒業50周年記念懇親会

1987(昭和63)年に同期会として発足し、「温故知新」多くの友が集い交遊を楽しんでいる。

今回、9月20日(祝・月)午後2時から法政大学ボアソナード・タワー26階スカイホールで開かれる。皆さんに喜ばれる企画を計画している。

会長は中込世雄法政大学名誉教授。同期生の参加を歓迎する。

申し込みは事務局・電話03(3445)5031鈴木嘉能までご連絡を。

校友からの短信

1945年農学部?入学／経済学部を卒業
多くの学生は戦場で散った

東京・西澤稜威雄

米英連合国との戦争も敗色濃厚だった昭和20年4月、私は経済学部に入学、楽しい学園生活を夢に描いて市ケ谷校舎の門をくぐった。

戦時下であった当時の日本においては、人手不足による食糧の生産が危機に直面している状況であった。政府はこの状態を打破するための方策として、5月21日、農商務省、厚生省、文部省の合同次官会議を開催し、理工系の授業は継続するが、文科系の学生を北海道の農家に送り込むことを、この三省で合意が為された。5月24日「農業に関する学徒動員の強化刷新に関する件」として、文部次官から、東大・早大・慶応・明大・立大・日大・中央・法政など在京の男子系大学に通達が届いた。各大学は、その公布を学生に伝えて、6月10日には、上野駅を発ち、青函連絡船に乗船させたのである。アメリカ潜水艦に沈められる危険を心配しながら、学生達は北海道に上陸、道内各地に配属されて経済学の勉強もせずに農業に従事したのである。

然し二カ月足らずして敗戦となり、学生達は身のおき方に窮しながら、バラバラとなり空襲で焼けた市ケ谷校舎に辿り着くという始末であった。学生の中にはそのまま農家の娘と結婚して、北海道に留まった者もいたという。

私は、昭和23年3月学士免状を頂いて経済学部を卒業したが、昭和18年4月に入学した700人の学生の内、卒業できた者は、経済学部264人、法学部73人、文学部11人と平数にも達せず、その大半が戦場から帰還できなかったのである。

いかに戦争が悲惨であったことか、卒業できずに散ってしまった同期生のご冥福を祈るとともに、この様な事実があったことを多くの後輩諸兄にお伝えした次第です。

野坂浩賢さんを偲ぶ

村山内閣の大番頭、官房長官だった野坂浩賢さんが4月に亡くなった。79歳だった。

野坂さんが法政出身の政治家だったことを知っている人は少ないかも知れない。また法政大学の3号評議員だったことを知っている人は更に少ないだろう。

野坂さんは96年秋の衆議院解散を機に政界を引退したが、それを待って大学3号評議員に就任して頂いた。学識経験者、社会的功労者としての野坂さんのご経験を活かして頂こうと言うものだった。

野坂さんを母校に強く引きつけたのは、やはり校友会改革と大学改革への過程であろう。校地買却に伴う不祥事件を強く批判し、私学のあり方、卒業生のあり方について私達を叱咤された激しい口調は今でも忘れることが出来ない。先輩野坂さんの死は、一つの時代の終りを告げるものだろう。

(52年経済学部卒　星野　次男)

45周年記念第五回七機会懇親会

去る2月24日にお台場のホテル・グランパシフィックメリディアンで、第5回「七機会」が10年ぶりに開催された。

当日は同期生35人、奥様同伴5組の計40人が参集した。名古屋、富山、山形などの遠方からの参加者の近況報告もあり、会は3時間に及んでも話は尽きなく、次回は2年後の2006年4月頃の再会を約して盛会裏に終了した。

尚、今回連絡をとれなかった方はご一報いただければ幸いである。

連絡先／神奈川県横浜市磯子区森が丘2の27の1七機会会長・加勢盛夫あて。

学部同窓会から

文学部同窓会

7月に定期総会を開催 馬場憲一教授の講演も

7月3日（土）13時30分から市ケ谷キャンパスの八三四番教室で定期総会を開催。総会終了後、現代福祉学部の馬場憲一教授の特別講演会を行う。演題は「新撰組研究と多摩」。

引き続いて、教職員食堂に会場を移して懇親会を開く。当日会費は5000円。

文学部同窓会特別企画 日本民家園（川崎）散策

5月30日（日）午前10時に小田急線・向ケ丘遊園駅南口・改札口に集合し、川崎多摩区にある川崎市立「日本民家園」を訪れた。参加者は10人だったが、天候にも恵まれ、日本全国から集められた伝統ある民家を、法政大学名誉教授村上直さんの説明を聞きながら園内を散策した。

（63年卒　山﨑敏夫）

経済学部同窓会

経済学部同窓会では、年に3回（1月、5月、9月）に会報を発行している。また、皆さんが参加できる楽しい行事を企画、経済学部を問わず校友の皆さんに広く参加を呼びかけている。ご家族連れでの参加も大歓迎。

経済学部同窓会に入会希望の方は、同窓会事務局042（83）2550までご一報を。年会費3000円。

台湾4都市観光・台湾法友会と交流

この秋、台湾の主要4都市高雄、台南、台中、台北を訪ねる。台北では台湾の法政大学出身者との交流会を開く。

・日程／11月21日（日）～25日（木）
・訪問地／高雄（蓮池潭、関帝廟、澄清湖、夜店街・六合二路の散策）台南（安平古堡、延平郡王祠、赤嵌楼）台中（宝覚寺、孔子廟）台北（龍山寺、中正記念堂、白系の滝、故宮博物館、忠烈祠、夜店街・華西街散策）
・交流会／11月23日（火）台北市内レストランで開催
・費用／約13万円
・参加人員は20人で設定。満員次第締め切ります。

問い合わせ＝047（466）1637　持丸　守。

旧江戸城と皇居庭園を回遊

恒例の散策の会。今回は、桔梗門に集合して皇居へ。日時／10月21日（木）13時桔梗門集合。窓明館でビデオ見学～皇居一般参賀コース～二重橋～鉄橋、折り返し～東御苑。散策の後、会食。会費／実費

申し込み＝03（3384）8402梅沢一夫。

（62年卒　竹内實昭）

法学部同窓会

平成16年度定期総会 懇親会を6月に開催 小早川毅彦氏講演も

2004年6月26日（土）午後1時から東京・赤坂プリンスホテルの別館グリーンホールで、平成16年度の法学部同窓会総会と懇親会が開かれた。

総会に先立ち「日米プロ野球を語る」と題して、法政大学野球部OBで元広島カープ4番打者であり、現在NHK野球解説者の小早川毅彦氏の講演が、メジャーリーグ情報などを交えながらあった。

昨年（03・6・28）の同窓会後の懇親会＝赤坂プリンスホテルで

講演終了後、定期総会、懇親会を、法学部卒業生以外の方への参加も呼びかけ開かれた。

講演会のみの参加は無料で、総会・懇親会出席の同窓は8000円。なお、法学部の同窓会会報は5月に発行された。

法学部同窓会事務局
東京都千代田区内神田1の8の9福山ビル6階
TEL 03（5283）7371
FAX 03（5283）7455
（事務局長・山嵜正俊）

社会学部同窓会

結成15周年同窓会総会 市ケ谷キャンパスで

7月10日（土）午後1時から市ケ谷キャンパス55年館教職員食堂で社会学部2004年度定期総会と懇親会（会費5000円）が開催された。

今年は同窓会が結成されて15年目。同窓会の抱えている問題は山積している。どう取り組むか、活発な議論が展開された。湯川新教授が「大衆音楽における定形表現」について記念講演を行った。

佃島散策と屋形船の旅 秋には青梅・御岳散策

4月3日（土）八板巖同窓会副会長の案内で、隅田川河口の佃島を散策した後、月島から屋形船に乗って東京湾に繰り出し、お台場沖で、もんじゃ焼きに舌鼓。16人が参加した。

今秋は、10月16日青梅線に乗って、紅葉の御岳山、御岳渓谷を訪ねる。10時30分御岳駅改札口に集合。校友の皆さんの参加を歓迎する。

秋の多摩移転20周年を祝い、記念募金活動！

既報の通り、社会学部が経済学部とともに多摩キャンパスに移転して今年は20周年を迎える。同窓会はこれを記念して募金活動に取り組んでいる。社会学部卒業生の皆さんの愛校心に基づくご厚志を心からお願いしたい。送金先は〒194－0298町田市相原町4342法政大学社会学部同窓会事務局。

記念行事は多彩だが、特に10月31日（日）のホームカミング・デーは、1980年代以降の卒業生を中心に年代を超えて幅広く多摩キャンパスに集い、母校・学部の発展の姿と今後の進路を確かめるとともに、親睦と交流を深める機会にしたいものである。多数の参加を期待したい。

（70年卒　竹下睿騏）

経営学部同窓会

同窓会主催の今後の主な事業計画を紹介する。全て参加費用無料（交通費実費自己負担）。他学部の卒業生の参加も歓迎している。

第1回イブニングセミナー「熱気球世界一／かぎりなく挑戦は続く」

6月25日（金）18時45分～20時。植村直己賞を受賞した冒険家・神田道夫氏の講演。会場はポアソナード・タワー25階イノベーション・マネジメント研究センターセミナー室。

このイブニングセミナーは年間3、4回開催を予定している。

法政トップマネジメントセミナー2004

7月5日（月）13時～17時ポアソナード・タワー26階のスカイホールで開催された。

講師は日本ゼオン㈱代表取締役会長・中野克彦氏、日産自動車㈱常務取締役・渡辺邦幸氏。

生産革新工場見学会

第1回は9月に松下通信工業を予定している。また、第2回を2005年2月にTOTO工場見学を予定。詳細は同窓会事務局へ。

特別講演と就職シンポジウム

11月10日（水）13時～17時に第一線経営者とエクセレントカンパニー3～4社の担当者を迎えて、会場はポアソナード・タワー26階ホール。

ベンチャー企業講演と就職シンポジウム

2005年2月（予定）

有名ベンチャー経営者との交流シンポジウム。基調講演とパネルディスカッション（体験談）と参加学生との意見交換会となる。

楽しい行事いろいろ 多彩に親睦会を計画

小旅行、ゴルフコンペ、神宮球場での6大学野球観戦、登山、ハイキング、カラオケ、ラグビー観戦会など家族でも参加できる親睦企画を予定。

これらの各行事ともそれぞれ詳細な案内書を作成する。お問い合わせは同窓会事務局へ。また、経営学部卒業生の同窓会への入会・積極的な参加を期待している。

同窓会事務局☎03（3264）4690へ。不在の場合は03（3222）5271へご連絡を。

（94卒　高木功治）

工学部同窓会

10月に工学部創立60周年記念事業

工学部の前身、財団法人法政大学航空工業専門学校（野上豊一郎校長）が1944年4月、木月校舎でスタートして今年60周年を迎える。木月3年、習志野3年、富士見町2年、麻布12年を経て小金井移転から40年を経過した。

記念事業は、大学主導で計画中。10月31日開催が予定されている。同窓会としても全面的に協力していきたい。

工学部同窓会の理事会 常設委員会からの報告

○理事会

・第114回理事会　3月26日理事、顧問ほか50人出席。予算と仮決算が承認された。
・第115回理事会　新年度を迎え、5月21日に開催。西海英雄工学部長をはじめ新執行部との恒例の懇親会を開く。同窓会副会長に春日隆教授会主任が就任した。

○総務委員会

昨年度は、会則改正を重点として行い、4月1日から施行した。今年は、工学部同窓会の将来構想として「大学と卒業生のよりよい関わり方」を練る。また、工学部60周年記念事業の同窓会推進窓口となる。

○財務委員会

過去には、会費納入者が全卒業生の15％程度を維持していたが、昨年の既卒者は5％にも届いていない。納入者の減少に歯止めをかけ、新たな財源確保も念頭に入れて、納入方法とともに魅力ある活動を検討する。会員各位には校友連合会費の納入にもご協力いただきたい。

○組織委員会

会員名簿の発行を7月末に控えて、悪戦苦闘している。広告など協賛金が予定の30％程度に止まり、経費額が増額になるなど財政的に厳しく、発行時期の変更や体裁等を含めて根本的に考え直すことになりそうである。発行に向けて一層のご理解ご協力をお願いしたい。

○広報委員会

工学部同窓会会報73号の発行に向けて奮闘中である。今号から、内容、体裁を大幅にモデルチェンジし魅力ある新生広報誌を目指している。ホームページも仮スタートし、年度内には軌道に乗せる。広告や記事の提供に格段のご協力をいただきたい。

2004年叙勲受章 原島榮一さん

2004年の春の叙勲で、法学部同窓会長の原島榮一氏が「瑞宝中綬章」を受章した。

校友連合会に寄付金 高橋秀夫さん

元工学部同窓会長・前校友連合会副会長の高橋秀夫氏から、校友連合会の活動にと、五万円の寄附金がよせられた。

―訃報―

●結城吉之介儀03・12・17
●上野　景造儀04・3・11
●野坂　浩賢儀04・4・18
●小池　一美儀04・6・9

人物往来

法政大学総務部の組織変更

2004年4月1日より総務部を組織変更し、総務課、渉外・庶務課、広報・広聴課の3課体制として新たにスタートしました。

なお、今回の組織変更により、校友連合会、同窓会等に関する大学側の窓口は、従来の広報・広聴課から、渉外・募金担当に変わりましたのでお知らせします。

法政出身の社長紹介

◇センチュリー証券株式会社
野澤　正平氏（のざわ・しょうへい）

64年経済学部卒業。64年旧山一証券入社。社長を経て、99年退任。04年4月からセンチュリー証券特別顧問。長野県出身66歳（04年6月10日就任）

◇リンテック株式会社
大内　昭彦氏（おおうち・あきひこ）

67年法学部卒業。67年不二紙工（現リンテック）入社。00年取締役。02年常務。兵庫県出身59歳（04年6月29日就任）

◇不二サッシ株式会社
嵯峨　明氏（さが・あきら）

64年経済学部卒業。64年不二サッシ入社。兵庫県出身62歳（04年6月29日就任）

◇自動車電機工業株式会社
小森谷　三令氏（こもりや・みつよし）

57年経済学部卒業。57年三ツ葉電機製作所（現ミツバ）入社。78年取締役、89年副社長、03年自動車電機工業会長兼最高経営責任者。茨城県出身69歳（04年4月1日就任）

◇株式会社カッシーナ・イクスシー
月岡　和夫氏（つきおか・かずお）

74年工学部卒業。74年日本総業入社。80年カッシーナ・イクスシー入社。93年取締役、02年取締役常務執行役員。東京都出身54歳（04年3月26日就任）

【役員会・委員会記録】

（2003. 12. 1 ～2004. 6. 20）

◆役員会
第12回　03年12月2日
第13回　04年1月27日
第14回　04年3月9日
第15回　04年4月20日
第16回　04年6月10日

◆委員会担当副会長会議
第4回　04年3月9日
第5回　04年4月8日

◆総務委員会
第11回　04年3月15日
第12回　04年4月23日
第13回　04年5月24日
第14回　04年6月9日

◆組織委員会
第8回　04年3月5日
第9回　04年6月23日

◆財務委員会
第5回　03年12月19日
第6回　04年3月18日
第7回　04年5月19日
第8回　04年6月4日

◆広報委員会
第28回　03年12月1日
第29回　03年12月5日
（28～29回は出張校正）
第30回　04年3月29日
第31回　04年4月1日
第32回　04年4月16日
第33回　04年5月22日
第34回　04年5月29日
第35回　04年6月5日
第36回　04年6月11日
第37回　04年6月19日
（33～37回は出張校正）

◆委員会正副委員長会議
第3回　03年12月19日
第4回　04年1月8日
第5回　04年2月19日
第6回　04年3月30日

◆インターネット専門委員会
第3回　04年2月12日
第4回　04年3月8日
第5回　04年4月14日

◆第13回卒業生大会（神奈川大会）準備会議
第4回　04年1月23日
第5回　04年4月9日
第6回　04年5月14日
第7回　04年6月11日

法政大学校友連合会総務委員
経営学部同窓会副会長
渡辺毎夫
経営学部1964年卒

法政大学
評議員
神沼邦彦
経済学部1963年卒

末石恒夫
経済学部（旧）1951年卒

「応援団」を応援する

チャンスだ、チャンスだ、かっとばせ！チャンス オー　法政！

「今年もリーグ戦がスタートする！我々は…」真っ黒に日焼けした応援団長の力強い声が神宮の森にこだまする。

応援席いっぱいに陣取った学生が間発を入れず「そうだ！」と応ずる。神宮でおなじみの応援風景の一こまである。

若い情熱をたぎらせる学生たち、温かく見守る内外野のOBたち、ここは、法政という絆が、世代を超えて結び合う交流の場でもある。

見慣れた応援風景であるが、黒の学生服が象徴する応援団は一種独特の世界、内部には悲喜こもごものドラマがある。そこで、今回は野次馬よろしく華やかな応援団の舞台裏をのぞいてみることにした。

応援団長辻田真也さん、副団長でありリーダー部の責任者でもある石山潤一さん、チアリーディング部責任者小川原あゆみさん、吹奏楽部責任者田中慎吾さん（当日欠席）に話を聞いた。

応援団はリーダー部と言われる「学ラン」の応援団とチアリーディング部、吹奏楽部の3部構成である。リーダー部は今年で79年目を迎える。現在部員は4年生8人、3年生1人、2年生4人の合計13人と意外と少ない。1年生の応援団への勧誘状況を聞いたところ、今年の入部は6人前後を見込んでいるとのこと、「応援のデモンストレーションを見に来た人に積極的に声をかけて、その後は飲みに連れて行って、（1年生が）気づいたら学ラン着ていると言うくらいにがんばります（石山さん）」と意気込みを語った。

年功序列、先輩に絶対服従の応援団にあって、やはり一番目立つのは応援団長であろう。応援団長は先輩の指名によって選ばれる。数々のつらい練習を乗り越え、団長となった辻田さん、練習では常に厳しく、妥協を許さない反面、同期や後輩の相談にのったり、辛いときには励ましてあげたりするという思いやりも持っている。応援団の見せ場はエール交換だ。「試合の時、唯一静まりかえるのがエール交換の時なんです。団員一人一人の気合を見てほしいです。」と団長は語気を強めた。

左から小川原、石山、辻田の皆さん。

負けた時の気持の切り換えは？「じいーっとガマンするしかない…」と屈託がない。

バトン部から受け継いできているチアリーディング部は今年で39年と歴史が長い。現在は4年生7人、3年生6人、2年生8人の合計21人。今年はすでに11人の新入生の入部希望者がおり、近年のチアリーダー人気を追い風に、ますます拡大の一途をたどっている。

また今年は、応援活動のみではなく、他大学と演技を競う競技チアーにも参加を予定している。

チアリーダーの見せ場といえば「演技をみてください」と語ってくれたのはチアリーディング部責任者の小川原さん。スポーツ観戦のみでなく、選手を応援する彼女達の姿にも注目である。また、「どんな辛いときにも笑顔を見せるチアリーダーに心を打たれます」と団長の辻田さんが語るように、彼女達の笑顔は価千金である。

彼等・彼女等は学生スポーツの応援だけではない。OBの忘年会だ、新年会だと声がかかり、滅法忙しい。

応援団とOB、このつながりはどのようなものか話を聞いた。「よき先輩にめぐまれています。就職や日ごろの応援活動でアドバイスをいただいています」と小川原さんは語ってくれた。また「私生活の悩みや相談を聞いていただいています」と石山さん。日ごろからOBとのつながりを大切にする応援団の仲間意識がうかがえた。

応援団OB組織は、総勢800人、団結は固い。組織をたばねるOB会長は神沼邦彦氏、副会長は久保田和則・小宮山光男・中川加代子の各氏。応援団卒は鍛錬普段でもやっぱり声が大きい。

今年の応援団のスローガンは「気持ちある応援団」である。応援団の一人一人は仲間のため、先輩のため、法政のためと活動を行っている。

「自分の身を削っても、だれかのために応援したいんです」とその胸のうちを熱く語ってくれた3人の真剣なまなざしが印象に残った。

（丸岡・長瀬）

箱根駅伝　予想大外れ、堂々の4位

成田監督

1月2日～3日に行われた、第80回東京箱根往復大学駅伝競走で法政大学は総合成績4位という好成績をおさめた。当会報第3号で「箱根駅伝／私の予想」を掲載し、何人かの駅伝好きの方に予想をしていただいた。しかしながら全員外れ、その予想範囲は5位～7位。成田監督失礼いたしました！！

来年を予想しながら、4月の末日に近い日風雨の中を多摩校舎体育課に成田道彦陸上競技部監督を訪ねインタビューを試みた。

来年はもっと上位を

―今年は総合4位という立派な成績でおめでとうございました。監督、何か秘策みたいなものがありましたか。

成田　秘策を使えればいいのですが、なかなかそうはいかないですね。チーム力は前からあったと思います。徳本が棄権した時も、そんなに悪い状況ではなかったし、その次の年もそんなに悪い状況ではなかったですね。ただ故障者が多く、予選会を走ったメンバー10人中6人が故障してしまった。そんなことで今年は欲張らず、とにかくスタートラインに立とうということでした。その中で予選会が結構良かったもんですから、その流れの中から選手が力を発揮出来たのではないかと思います。

―駅伝の場合は調整が大事ですよね、選手の調子のピークをどこに持っていくかが大変だと思いますが。

成田　強いと言われた大学が予選会に回ったとか、順位が後ろだったとかの話を聞くと、結局は故障者が多くてスタートラインに立てなかったということでしょう。過去2年私共がやってしまったことを、他大学がやっていたということだと思います。

―今年は3年生が5人でしたので、来年は凄いことになるのかなと。

成田　まあそうなんですが（笑）、この3年生を脅かすような選手が出てこないとなかなか勝ち進んではいけないです。チーム力があっても、個々の力が上がっていかないと総合力で落ちてしまいます。

―来年は監督としましてはどの程度を予想しますか。

成田　本当はもう一歩上がりたい気持ちはありますが、その前に何とかして故障者を出さないで全体のレベルをどうやって上げるかということにかかっています。昨年のように絶対的なエースがいないのと、2、3、9区を走った選手がいなくなるので、今度はそこを走る選手がかなりのプレッシャーがかかるのでは。

―来年一番期待する選手は誰ですか。

成田　今年1区を走り、2年になった圓井（つぶらい）ですね。次は2区ぐらいは走ってもらいたい。

―監督も学生時代は箱根を走ったんですよね。

成田　2年のときから、2区を3回走りました。14、13、8位で、後ろをトコトコ走っていました。（笑）

―最後に今から箱根駅伝を楽しみにしている卒業生にメッセージをお願いいたします。

成田　卒業生の皆様からは温かい言葉とプレッシャーを（笑）いただいております。ありがとうございます。いい結果を出せるよう頑張ります。

取材／高根典文、撮影／吉田光男（駅伝友の会）

◆選手データいろいろ◆

●箱根を走った卒業生の進路

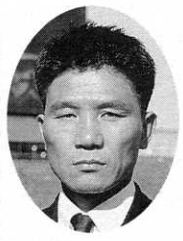
長嶺貴裕＝JR東日本、黒田将由＝中国電力、中山洋輔＝東京電力

●過去3年間の主将

2000年坪田智夫（コニカ）、2001年徳本一善（日清食品）、2002年土井洋志（ホンダ浜松）

ラグビー部　原点回帰　基本重視

監督　山本　寛



本年、創部80周年（大正13年創部）のメモリアルイヤーを迎える当部は、これまで大学選手権優勝3回の実績を残して参りましたが、平成6年の優勝を最後に『学生日本一』の座から遠ざかっているのが現状です。特に平成11年以降においては、ベスト4には進出するも、最後の壁を越えることができず悔し涙を流し続けております。

当部にとって節目のこの年に、現役部員だけでなく学校関係者・OB諸氏の悲願であります『関東大学リーグ戦優勝』、『学生日本一』奪還を目指し、スタッフ・部員一同日々努力を重ねているところであります。

今シーズンは『原点回帰』、『基本重視』をテーマに掲げ、4年生を中心に強化を進めておりますので、体育会ラグビー部にご期待下さい。グランドでは「ダイナミックかつスピーディーなラグビー」を展開し、観客の皆様に感動を与えられるプレーをして参りますので、是非ともスタジアムに足をお運びいただきますようお願い申し上げます。

2003年度就職内定一覧

【経済】金澤良＝㈱リコー、小栗孔明＝三菱製鋼㈱、小吹祐介＝㈱リコー、坂本貴章＝近畿日本鉄道㈱、佐藤平＝日本電気㈱、松田耕記＝セコム㈱、三浦久直＝㈱島津製作所、武藤充孝＝栗田工業㈱

【法学】水山尚則＝日本電気㈱、好本崇宏＝マツダ㈱

【社会】佐藤崇幸＝ヤクルト㈱、磯田金吾＝NTT東日本㈱、五味勇気＝教員志望、谷口大督＝九州電力㈱、富善司郎＝広島建設㈱、友井川佑＝三陽商会㈱、長瀬憲二郎＝山梨いすゞ自動車㈱、福田智則＝日本電気㈱、

【工学】山田伸太郎＝NZ留学

アメリカンフットボール部　学生日本一を…

監督　大森廣行

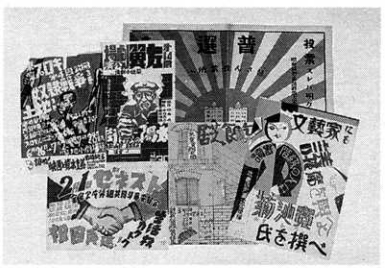
当部は、1934年にハワイ二世の若林忠志先輩を中心に創部され翌年リーグ戦に参加してから来年70周年を迎えます。この間多くの卒業生を輩出し744人が部史に名前を刻んでおります。

昨年は2年振りに関東大学選手権で王座を奪還したものの学生日本一にあと一歩のところで敗退いたしました。しかし我々はこの結果を前進するための大きな起爆剤として真摯に受け止め今年のチームに確実に成果としてもたらし、今年は学生日本一を狙えるチームを作って参ります。春からのチーム作りも順調に推移しており手応え充分に感じていますので今年の『Tomahawks』をご期待ください。是非、応援にグランドにお越しくださいますようお願い申し上げます。

〈2003年度卒業生就職先企業〉は次の通り。

東京三菱銀行・IBM・松下電工・明治安田生命・ジェーシービー他。

法政の誇る研究所紹介 ④ 大原社会問題研究所



大原社会問題研究所は、多摩キャンパスの図書館・研究所棟の五階にある。今では、社会科学の分野では、わが国最古の歴史を持っている研究所として知られている。

この研究所は、その名の示す通り、創設者は大原孫三郎。1919（大正8）年2月大阪に設立された。当時、倉敷紡績株式会社社長であった孫三郎が、私財を投じて設立・運営に当たったものである。だが、その後、金融恐慌などにより、孫三郎からの財政援助が難しくなり、研究所の存続さえ危ぶまれてきた。当時の所長の高野岩三郎らの努力で、研究所は、大阪から東京に移転し、自立経営の方針を固めたが、世は戦時体制下で研究所活動も困難になってきた。

敗戦後6年目の1951年1月、法政大学と合併して「財団法人法政大学大原社会問題研究所」として文部省からの認可が下りる。その後は、原資料の整備、図書や機関紙類の整理も進み、次第に所内の体制も強化され、調査・研究活動も盛んになっていく。

研究所は、麻布校舎、市ケ谷キャンパス80年館から現在の多摩キャンパスへと転々とする。多摩キャンパスへ移転した1986（昭和61）年の頃から、研究所の活動が軌道に乗ってきたといえる。

この研究所の蔵書数は18万冊を超える。所蔵する図書・資料の特色を二、三紹介しておこう。まず、戦前からのビラ、パンフレット、機関紙誌、新聞などの原資料である。由来は『日本労働年鑑』の編集刊行のために収集されたと聞く。これは、他大学図書館や研究所にもない貴重なコレクションとなっている。

また、エルツバッハー文庫や『資本論』初版本など、ドイツ、イギリスで収集された戦前の質の高い文献がある。三つ目が、労働組合関係記録、農民組合関係記録、無産政党本部資料、米騒動資料、裁判記録といった記録類である。これらの資料や文献は、学内の教職員、学生はもとより、学外者も、資格を問わず、だれでも利用出来る。

またホームページ（http://oist.org）での情報発信も活発である。

アテネオリンピックへ

今年8月に行われるオリンピックに法政関係者では次の方々が出場する。

◇三宅宏美（学生）重量挙、岩手宇信（卒業生）重量挙、長良将司（卒業生）フェンシング、久枝円（卒業生）フェンシング、為末大（卒業生）陸上競技、斉田守・フェンシングコーチ。（6月26日現在）

優秀環境大学賞受賞

第13回地球環境大賞

この度、法政大学は「第13回地球環境大賞」に応募し、『優秀環境大学賞』を受賞した。また、地球環境大賞は、トヨタ自動車がハイブリッド車の開発・販売が評価され獲得した。

受賞式は4月26日、明治記念館において秋篠宮殿下・同妃殿下のご臨席の下に行われた。本学からは清成忠男総長をはじめ関係者が出席した。

地球環境大賞は、フジサンケイグループ・日本工業新聞社が財団法人・世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン、各誉総裁・秋篠宮殿下、会長・大内照之氏）の特別協力を得て1992年に「地球環境大賞顕彰制度」を創設。

経済産業省、環境省、文部科学省が後援、日本経済団体連合が協力、今年13回目を迎えた。今回は環境保全活動に貢献している、10企業と2自治体、1大学、1市民グループが選ばれた。

本学の受賞は、1999年3月に「学校法人法政大学環境憲章」を制定、グリーン・ユニバーシティの実現を理念に掲げ、人間環境学部・大学院環境マネジメント専攻、ISOの認証取得、環境審査員養成、EMS審査員研修講座、環境展及び環境センターの設立等、教職員、学生が一丸となって環境活動を進めていることが評価された。

（和田記）

時の人

亀田製菓㈱代表取締役会長 古泉（こいずみ） 肇（はじめ）氏を訪ねて

（1965年　経営学部卒）

「サッカー」と言う競技には「魔性」が潜んでいるようだ。試合ともなればサポーターと称するファンが広い会場を埋め尽くす。そして、熱狂的な応援を繰り広げる。私はサッカー音痴だが、この世界で特に注目されているのが、今年「J1」に昇格した「アルビレックス新潟」であることぐらいはわかる。常勝…とはいかないが、観客動員数で群を抜いている話題のチームである。その「アルビレックス」をせっせと応援しているのが古泉さん。

本業は「おいしい米菓をつくること」。親子で築き上げた優良企業・亀田製菓の会長さんである。仕事の合間の応援だが、かなり熱が高い?とみた。

5月の連休明け、新緑のまぶしい新潟の本社に古泉社長を訪ねていろいろお話を伺った。（丸岡孝）

「サッカーとは縁が無かったとのことですが、どうゆうキッカケで…」

「ボールを蹴ったことも試合を見たことも無かったのですが、7～8年前、日本サッカー協会の川淵三郎さんにお会いしたのがキッカケでした…」

その後、いろいろな機会を通じてサッカーとの縁が深まり、「もう抜けられなくなってしまいました」（笑）

「アルビレックス新潟」のユニフォームには「亀田製菓」と大書されている。

「いつ頃からのおつきあいですか?」

「1998年10月から…池田社長（アルビレックス新潟）の熱意と誠意にほだされてお手伝いすることになった」が、地域での豊かな街づくり、スポーツ文化の創造という理念に共鳴してメインスポンサーに…。

ご存じのように、5年後にはJ2優勝とJ1昇格という快挙をなしとげた。地元への経済効果も十分とあって、新潟は、いまや「アルビレックス」なしには語れない。

インタビュー風景、左　古泉会長

菓子業界の老舗

さて、その亀田製菓を率いる古泉会長は1965（昭和40）年の経営学部卒。卒業と同時に亀田製菓に入社したが、当時の亀田製菓は従業員434人の中小企業、創業社長古泉栄治氏が昭和32年に設立（創業は昭和21年）。

以来40余年。「私は1・5代目」と苦笑されるが、父親と二人三脚、古泉氏の人生は亀田製菓の歴史そのものと重なる。

現在は従業員2100人余、年商630億円、堂々たる上場企業までに育て上げたプロセスを淡々と語る古泉氏にさわやかな闘志をかいま見る。

かつて「おせんべい」は駄菓子屋での量り売りの家内産業?。生産革命、包装革命、保存技術革命、流通革命、経営革命、ブランド革命など、「量り売りから袋売りへ」「生業から企業へ」数々の節目をテコにしながら一つの産業としての地歩を固めてきた。

幸運はあったにせよ、チャンスをモノにしたのはやはり経営者の才覚というところか?。

米どころの新潟、さすが地の利を得て米菓業界での新潟県の占める全国シェアは60%、その半分は亀田製菓が占めると聞いて、大きな工場敷地が余計大きく見えた次第。

「新潟に生を受け、『お米』という日本人の文化そのものを素材とした食品産業でお役に立てるのは望外の幸せ」と語る氏に「生活信条は?」とお聞きすると、「熟慮断行」という言葉が返ってきた。

社長のバトンタッチを受けた昭和58年、父親がこの言葉を「額装」して贈ってくれたもので会長室に掲げてある。以来座右の銘となった。

「学生時代の思い出は?」と尋ねると「松岡教授が教えてくれた近代的経営管理論」。経営の原点として、自分なりにかみ砕いて折にふれて経営のヒントとしてきた。

「これからの時間、校友会やOBの交流活動に力を貸して頂けますか?」「努力致します」との力強い言葉が返ってきた。

あの時代　この時代

研究教育体制懇話会のこと

法政大学名誉教授　川上　忠雄

法政大学での45年間、若気の至りで随分迷惑もかけた。いろんなシーンが次から次へ脳裡を去来する。その中で大学のために役立ったかなと思うのは、研究教育体制懇話会のこと。

これは若手教員のまったくのボランティア組織で、中村哲さんがはじめて公選の理事として出た時（1963年だったか?）、教授懇談会に招いてのやりとりがきっかけとなって生まれた。先生にあれこれお願いするのではなく、教員が自分たちで教学の改革に乗り出そうという志を持った者達が集まった。常連のメンバーは20人ほどにも達したろうか。下森、杉本、徳永、川上、桝田、岩村などが特に精勤だった。2週に1回ぐらい土曜日午後に集まって懇談を重ね、ひどかった現状の調査も分担しておこない、4年ほどかけて研究の白書、次いで教育の白書を手弁当でつくりあげたのである。

改革の提案もまとめた。独立した教養課程の廃止、専門・一般教育・外国語科目の四年間の有機的なカリキュラムの編成、学部適正規模の確定をふまえたマスプロ教育の弊害是正など。

難しい問題について皆の意見が必ずしもすんなり一致したわけではなかった。しかし、この討論こそが相互の信頼を育みつつ、法政大学の今日の教学改革の原点となったことは間違いない。

市ケ谷校舎と大江　宏

工学部教授　大江　新

新しいボワソナードタワー（高さ120m余）の足元には55・58年館（長さ120m余）が東西に伸び、その西端にはかつて大学院棟や第二58年館も存在した。これら一連の建物は戦後間もない50年代、時の総長大内兵衛氏の要請を受けて大江宏（当時の建築学科教授）により設計された。

世界的な潮流だったこのモダニズム建築の特徴は、骨太な骨格と軽やかな表装という明確なコントラストにある。それは表装の背後に骨格を隠そうとする最近の建築との違いでもある。

柱梁など長期間を生き長らえる骨格部分には荒削りな表情を、また時間経過と共に改変されてゆく間仕切りや家具、設備配管などをよりやさしいインテリアとして使い分ける手法は、建築に潜む二つの異なる寿命を反映したデザインともいえる。

当時の密実で良質なコンクリートで施工された確かな骨格を活かしつつ、目に近い部分や手に触れる部分を対比的にリ・デザインしてゆくことが今後の好ましい方向と思える。

卒業生の「生涯学習・知的コミュニティの場」

エクステンション・カレッジ開講中

愛校心ある卒業生を対象に4月24日から「法政大学の歴史」を開講中である。講師に、本学史に精通した飯田泰三法学部教授をお招きして、法政大学の草創期から今日までの歴史を皆さんと振り返っている。前期は1945年まで、後期は戦後の50余年を通観する。

エクステンション・カレッジでは、この他にも社会人向けの講座を数多く開講している。定評あるビジネス系をはじめ、資格、語学、文化、教養講座なども拡充し、皆様の能力開発、ライフプランのお手伝いになればと考えている。

受講料は一般向けの一割引に設定。今後開講される各講座の案内パンフレットを希望される方は、専用web サイト＝http://www.hosei.org/ ebサイトで会員登録（無料）および資料請求していただくか、電子メール、電話などでお気軽にご連絡ください。

連絡先／法政大学エクステンション・カレッジ TEL03（5261）5104／FAX03（5261）5106／電子メール＝help@hosei.ac.jp　専用web サイト＝http://www.hosei.org/

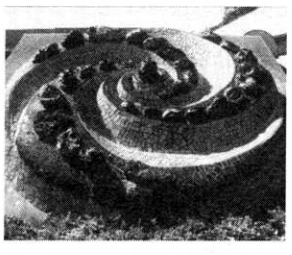
大学スポット　ゆかりの地

法政大学創立者顕彰碑

大分県杵築市城山公園。法政大学の創立者、金丸鐵（かね）と伊藤修はともに幕末、豊後国杵築藩士の家に生まれ、上京、1880年法政大学の前身東京法学社の創立に薩埵正邦とともに参画した。

碑文には「元杵築藩士金丸鐵・同伊藤修両先生によって、明治13年（1880）4月、フランス法学系の東京法学社が神田駿河台に創立された。／これが、わが国近代法学の普及と発展に大きく寄与した法政大学の淵源である。金丸先生28歳、伊藤先生23歳のことであった。／その功績を讃え、学恩を謝してここに銘記する。／法政大学」とある。

栢野（かやの）晴夫記念碑



多摩キャンパス社会学部A棟・4号館入口。1982年4月不慮の事故で急逝された栢野晴夫教授の社会学部創設（1952年）以来の功績を記念して、社会学部教授会が陶芸家北一明氏（1957年社会学部卒、芝田ゼミOB）制作のモニュメント「泉・不戦の誓」を建立したものである。このとき、社会学部A棟・4号館2階事務課前の学生ホール壁面にも北氏が制作して寄贈された「夢」の文字のレリーフがすえつけられた。

亜細亜親善「友の会」会長
法政大学校友連合会横浜支部支部長
株式会社　富士見コーポレーション
代表取締役会長　今井　正七　経済学部1942年卒

東京紙商法友会会長
河内屋紙株式会社
代表取締役社長　岩村　元雄　経済学部1960年卒

株式会社　加賀ライズ
代表取締役　髙根　典文　経済学部1956年卒

松嶋司法書士事務所
司法書士　松嶋　晃正　法学部1969年卒

法政大学校友連合会・東東京法友会
会長　鈴木　昭吾　経済学部1953年卒
〒113-0031 東京都文京区根岸二―三五―二 電話（〇三）三八二八―七七八五

法政大学校友連合会
目黒支部
支部長　長谷川　光延　経済学部1951年卒

法政大学校友連合会
監事　原田　英二　経済学部1952年卒

法政大学校友連合会
総務委員長　鈴木　公夫　工学部1959年卒

法政大学校友連合会
広報委員長　丸岡　孝　経済学部1958年卒

法政大学校友連合会
総務委員　中野　忠　経済学部1958年卒

横浜で会いましょう。

第13回法政大学
全国卒業生の集い『神奈川大会』

10月29日(金)～31日(日)
会場：横浜大さん橋ホール

横浜みなとみらいの夜景

□主催／法政大学校友連合会
神奈川大会実行委員会

＜大会日程と参加料金のご案内＞

月日	イベント	内容	会場	料金
10月29日(金)	エクスカーション	ゴルフ(1R)	磯子C.C.	25,000円
		ナイト・イルミネーション・クルーズ	横浜ベイエリア	6,000円
10月30日(土)	大会式典	記念講演等	大さん橋ホール	大会登録料 男 12,000円 女 8,000円 同伴8,000円
	懇親会	各種イベント	大さん橋ホール	
10月31日(日)	エクスカーション	古都・鎌倉散策	特選鎌倉周遊	8,500円

●大会の登録方法
最終締切日は９月30日（木）です。必ず締切日までにお申し込みください。
●宿泊について
横浜地区に15のホテルを用意。料金は9,000円～。
●交通について
航空セット、ＪＲセット等各種割引いて用意している。
●当日配布される「大会記念誌」に協賛広告を募集している。お問合せは校友連合会事務局へ
●お問い合せ、お申込みは
参加申込書の請求など各種お問い合せは、校友連合会事務局にお願いいたします。
〒102-0073　東京都千代田区九段北３－２－３
法政大学九段校舎４Ｆ
ＴＥＬ03-3264-1831、ＦＡＸ03-3264-4770
担当者　坂本　順子

第13回法政大学全国卒業生の集い
神奈川大会によせて

神奈川大会実行委員長　岡田　安弘

本年10月30日「第13回法政大学全国卒業生の集い」を神奈川大会として横浜市横浜港大さん橋ホールで開催することとなりました。新たな発展を目指す校友連合会としては昨年の福岡大会に続く2回目の大会で、首都圏で開催される初めての大会です。

神奈川大会実行委員会の構成団体は神奈川県下の校友連合会各支部及び校友連合会発足により組織加入をした付属三高校の各同窓会。

会場となる横浜港大さん橋ホールは海外文化の窓口・みなと横浜の象徴で一昨年新装なった歴史ある大さん橋の先端に位置するホールであり、「海上から未来へ限りない発展」をモチーフに完工されました。

実行委員会構成団体は心を合わせ全国校友の皆様をお迎えする準備をしています。法政の限りない発展を象徴する会場に奮ってご参加ください。校友連合会本部・150を超える全国各支部・学部同窓会・校友諸団体の皆様のご支援ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

編集後記

▼第4号のお届けが予定より若干遅くなった。本来なら「会員だけ」に送る会報であるが、今回、大学当局、並びに関係者のご理解・ご支援で、急遽「大学に登録済みの卒業生」全員に送ることになった。「法政大学報」に同封して頂くことになり、その準備などもあって遅くなった次第、お詫びとともに関係者の英断に心より感謝申し上げます。

▼編集過程で原稿量が予想外に多くなり、10頁分ぐらいに膨らんでしまった。予算の問題もあるので、書き直しやら次号送りで漸く8頁に収まったが、原稿の削減は辛い。良かった記事、あまり感心しない記事、読後感など、率直なご意見を是非お聞かせください。

◆編集員の手不足で困っている。会報作りに興味のある方、お手伝いいただけませんか？ ボランティア活動になりますが、経験者の方、女性大歓迎です。

▼今年も暑い夏がやってきた。夏になれば冬もいいかなーと思い、寒さが厳しくなると夏の暑さも捨てがたい…などと「無い物ねだり」は人の常、凡人の習い。夏もよし、冬もよし、雨露凌げれば陋屋も楽し、「隣の芝生」は青く見えようが、枯れかかって見えようが、柳に風と受け流せたらこの世は楽園になる？（丸岡）

2004年

盛大だった新年を祝う会
母校への感謝の集い

オール法政

校友連合会主催の「2004年オール法政新年を祝う会」は、1月17日（土）11時からセンチュリーハイアット東京で開催された。全国から1000人近い校友が参集した。（竹下睿騏）

内山久美子アナのさわやかな司会で開会。初めに佐伯弘治会長が主催者あいさつ。その中で、私学の卒業生団体のあるべき姿は親睦団体、諮問機関に徹し、大学の転換の時期にこそ節度をもって支援することにあると強調、「大学と心を通わせた活動をしていこう」と呼びかけられた。

ついで清成忠男総長と高村嘉昭後援会会長の来賓のあいさつ。総長は、ことしは私立大学が変革の時期にあり、法政大学もひきつづき種々の大学改革に取り組んでいることを報告。高村会長は、法政大学支援の輪を作っていこうと述べられた。

挨拶する清成忠男総長

さらに、校友の上田清司埼玉県知事、国会議員田中和徳、神風英男両氏が紹介され、スポーツキャスター羽佐間正雄氏の司会で野球部OBの松永怜一、関根潤三、新語アナリストの亀井肇、プロゴルファーの小池リサ各氏の紹介とトーク、アリオンコールによる校歌、学生歌「オレンジの園に」の合唱とつづく。

清成総長ほか16氏による鏡開き、小田急電鉄松田利之社長のあいさつ、法政大学経営者懇談会小佐野文雄会長の音頭による乾杯、祝電披露のあと、歓談に入る。

アリオンコールの合唱、ばか面踊り、応援団とチアリーディングによるアトラクションで盛り上がり、2004年法政大学卒業生の集い・神奈川大会の案内を岡田安弘実行委員長が行い、岩部金吾副会長の閉会あいさつ、応援団リードの校歌斉唱でお開きとなった。当日、会場での参加者の声をご紹介しよう。

参加者の声

青春の血が騒ぐ
経済学部同窓会
高橋　将昭（60年卒）

「新年を祝う会」は、今日の母校発展の姿を象徴しています。全学部の同窓が一堂に集まり、総長、会長の言葉を拝聴し、更なる結束を確認します。箱根駅伝の4位健闘、学部の増設など期待感が高まります。応援団、チアリーダーの演技に若き血潮がほとばしり、全員の校歌斉唱は過去最高の出来でした。

盛会で楽しかった
工学部同窓会
川上　忠重（85年卒）

今回初めて参加しました。1000人近い出席者で大変盛会であり、新年を祝う会にふさわしく多くのアトラクションを旧友とともに楽しむことができ、感謝いたします。最初からテンションが上がりすぎの方も多く、あいさつ等で聞き取りにくい場面もあったのは残念です。

母校はいつも学びの場だ
伊田　明子（89年文卒）

ひさびさに法政の空気にふれた。私にとっての法政は、いつもいろいろな事を教えてくれる母校だ。総長をはじめたくさんの方々の話はそれなりに私の心に響いた。

和洋中のバイキング、ウエルカムドリンク、お土産いずれも海外文化の窓口・みなと横浜の象徴で一昨年新装なった歴史ある大さん橋の先端に位置するホールであり、「海上から未来へ限りない発展」をモチーフに完工されました。

実行委員会構成団体は心を合わせ全国校友の皆様をお迎えする準備をしています。法政の限りない発展を象徴する会場に奮ってご参加ください。校友連合会本部・150を超える全国各支部・学部同窓会・校友諸団体の皆様のご支援ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

いでに、永井あこ著『恋愛』の紅白饅頭もよかった。つ　新風舎もよろしく。

卒業生のみなさん　校友連合会の活動に参加しましょう

法政大学卒業生の組織、校友連合会は、傘下の各組織の理解と協力の下に実績を積み重ねています。母校法政大学は清成総長のもとで大胆な改革をすすめ、今もっとも注目されている大学となっています。大学と卒業生がともに手をとりあってこそ母校の発展もあります。

しかし、卒業生の組織はまだ発展途上です。１人でも多くの方にご参加いただき、青春をともにした同窓、大学の仲間たちと楽しみながら、母校を応援しましょう。大学との楽しい企画もあります。

連合会に参加するためには、次のいずれかの手続きをしてください。校友連合会への参加年会費は３０００円です。いろいろな地域支部、同窓会、会員団体などに参加する方法もあります。各団体ではそれぞれに運営費が必要になる場合があります。

●お申し込み、またはお問合せは校友連合会事務局へ
〒１０２－００７３
東京都千代田区九段北３－２－３
法政大学九段校舎４階
ＴＥＬ０３－３２６４－１８３１
ＦＡＸ０３－３２６４－４７７０
Ｅメール：jimukyoku@hoseinet.com
校友連合会ホームページでも入会案内をしております。

ｈｔｔｐ：//www.hoseinet.com
ｉモード用ホームページ
ｈｔｔｐ：//www.hoseinet.com/i/

切り取り線

FAXまたはハガキで（切り取って貼る）お寄せ下さい

法政大学校友連合会に　□に√を。
□ A.参加する
　□ ①近くの連合会地域支部
　□ ②連合会の個人会員
　□ ③学部同窓会
　（法・経済・文・経営・社・工）
□ B.いずれ参加しても良いと考えている

お名前	ふりがな	電話
ご住所	〒	

卒業学部（　　）卒業年西暦（　　）

概当する項目に印をつけて、お寄せください。